

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

里山だより

2006年11月

秋号 27号



名張市公益実践事業の「里山ワイルドライフ」に親子でご参加。薪割り機で薪割り体験。

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

〒518-0762 三重県名張市上三谷268番地の1

0595-64-0051

fax 0595-63-4314

ホームページ：<http://akame-satoyama.org/>

ホームページを開いてメルマガの読者として登録してください。



第14回全国雑木林会議三重大会 in 赤目の森

延べ320名の参加で大成功を収める

デジタルデータ化、全国発信、青年の活躍、事業型里山保全などが特徴

全国の里山・雑木林の保全に取り組んでいる人たちや学者、研究者が一同に会して、日頃の活動や研究の取り組みなどを交流し合う「第14回全国雑木林会議三重大会」が、9月14日のプレエクスカージョンから始まり、18日のクロージングイベントまで、5日間にわたって、三重県下を訪ねながら、本会議は赤目の里山を育てる会の本拠地の「赤目の森」で行われました。

全国から17.18日の両日で延べ320名の方々にお集まりをいただき、様々な分野の経験交流や最新の学問研究の成果、また新しい里山での事業の提案など、今日的な里山のすべての関心を一同に集めた立派な会議を行う事ができました。

特に今回は、これまでの参加者などのデータが集約されてない状況から、デジタル化を行い、これからの情報発信が簡単にできるように取り組みました。また、全国会議であればあるほど、全国に情報発信を行う必要があり、デジタル化された情報を活用して3度も郵送物を送ったり、今年初めて「雑木林会議メルマガ」を発行する事ができました。

また、今回の会議を成功に導いたのは、国際ワークキャンプ「ナイス」のグループや週末キャンプの仲間たち、京都学園大学の学生たちなどの多くの青年たちの活躍でした。献身的で活動的なかれらの取り組みは、多くの人たちに元気と活力を与えることになりました。

そして、今回の大きなテーマは、「事業型里山保全」ということで、具体的に活躍されている愛知県日進市の「ゴジカラ村」村長の吉田一平さんを招いてお話を聞く事ができました。自分の理想に里山の環境をどのように利活用していくのかというしっかりとした理念と哲学を持って取り組んでおられる各種の事業の関連が具体的に語られました。「ミツバチ講座」「ペレタイザー講座」「環境教育事業」「石窯の利用」など様々な取り組みの中で、里山での事業を模索する多くの人がいることを感じる事ができました。

来年は、島根県の大田市で、「石見銀山」の本拠地での開催となります。赤目の里山を育てる会の10周年事業に多くの方々のご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。



開会式で演奏する二胡グループ「長弓の会」

【(特) 赤目の里山を育てる会 活動日誌 2006年7月から11月】

名張市市民公益活動実践事業 「親子で体験しよう！里山ワイルドライフ」

- * 7月16日(日) 第1回 「世界一小さなトンボハッチョウトンボの観察と番茶作り」
 - 8月20日(日) 第2回 「そうめん流しと昆虫採集」
 - 11月19日(日) 第3回 「ご飯を薪で炊いてみよう」
- 毎回 20組以上の親子が参加して、赤目の自然を楽しんでもらっています。

名張市市民公益活動実践事業 「ユニバーサルウォークで健康と環境を体感しよう」

- * 9月 3日(日) 第2回 第二回目で18名の参加で、歩き方と赤目の自然を体験しました。
- * 7月30日(日) 第14回全国雑木林会議ブレ企画「里山祭」を開催 60名参加
- * 8月7—10日 韓国の社団法人ハングルノッセク会研修 21名来訪
赤目小学校の先生たちとの経験交流を行う。
- * 9月14—16日 第14回全国雑木林会議三重大会 エクスカーション開催南紀 伊勢
- * 9月17—18日 第14回全国雑木林会議三重大会 本大会開催 赤目の森
2日間で、延べ320名の参加がありました。

毎週このような、取り組みをこまめにしています。また、助成金各種事業も日常的な課題として、取り組んでいます。

第14回全国雑木林会議三重大会 事務局からの報告

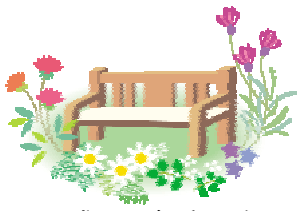
第14回全国雑木林会議三重大会 事務局長 佐野憲一郎

まず、全国からお集まり頂いた参加者の皆様、お忙しい中会議の準備・運営にご協力下さった皆様に対し、心より感謝いたします。また多くの方々や企業より、ご寄付や協賛をいただきました。ありがとうございました。今年1月に行われた第1回準備会より会議への取り組みが始まり、最終的には80名からなる実行委員会が組織されて会議の準備を行いました。実行委員会では毎回活発な議論が行われ、3日間に渡るエクスカーションや森の中で行う本会議、分野横断的な分科会の企画など、過去の会議形式にはとらわれない斬新な企画が次々と生まれました。

実行委員会の決定に基づいて調整や作業を行ってきたのが事務局ですが、赤目の里山を育てる会の会員の協力に加え、過去の国際ワークキャンプで赤目の森の保全に取り組んだ若者たちが東京で青年部を結成し、はがきの発送や名簿の整理など、事務作業での協力も得られました。

9月2日からは、国際ワークキャンプの青年ボランティア10名が集まり、その後も日本大学や京都学園大学の学生が加わり、開会までの2週間を泊り込んで会場整備に尽力して下さいました。会議当日はさらに多くの方がボランティアとしてご協力下さいました。

自分たちでできることは自分たちでやるという、手づくりの会議の実施が可能だったのは、こうした多くの方々のご協力が得られたためでした。関係者の皆様に、再度深く御礼申し上げます。



2006年7月～2006年11月

赤目の里山を育てる会活動記録

平成18年度 名張市市民公益実践事業に応募し、二つの企画が通りました。

一つ目は健康長寿社会の創造「新現役世代の元気作り事業」という課題で、「ユニバーサルウォークで健康と環境を体感しよう!」という事業です。ユニバーサルウォークとは、どこでも誰でも取り組めるウォーキングで、身体に課題動作を与えることにより眠っている器官を呼び覚まし、本来持っている感覚を甦らせて楽しく健康的にどこでも誰でも取り組める内容となっています。日本の原風景ともいえる「里山」を保全管理し、荒廃していく身近な自然環境を守り育てているフィールドを活用し、みなさんの元気作りのお手伝いを目的としています。

もうひとつは、「四季折々の里山体験での原風景作り講座」として「親子で体験しよう!里山ワイルドライフ4回シリーズ」です。親子で四季を感じながら「里山」で薪を使ってご飯を炊いたり、希少種である生き物を観察したりワイルドな体験を通して自分たちの住む町の自然環境を知り、日本人としてのアイデンティティーを親子で育てて頂く事を目的としています。里山整備したフィールドにまた、新しい方が里山に集い学ぶことができます。赤目の里山で汗水流して整備して下さった皆様に心から感謝いたします。

ユニバーサルウォークで健康と環境を体感しよう!

期間:平成18年7月2日 9月3日 10月1日 12月3日 平成19年2月4日まで

時間:10:00~15:00 場所:エコリゾート赤目の森にて



・座学「健康に生きるとは?」



・実技 歩き方の基本の後、里山散策

親子で体験しよう!里山ワイルドライフ 4回シリーズ

期間:平成18年7月16日 8月20日 11月19日 平成19年1月21日

時間:10:00~15:00 場所:エコリゾート赤目の森



・里山散策をしながらお茶の葉を摘んで、新茶をみんなで作る所。



・トンボ池にて水生昆虫の観察。

今年は、「第十四回全国雑木林会議三重大会 in 赤目の森」が赤目の森で開催することになり、全国から大勢の方が参加されました。この会議に向けて中川重年さんを中心に「石窯」が完成しました。また、みなさんのご協力により、こもればテラスを広げて野外で寛げる空間も出来ました。

今回の会議開催により里山も綺麗に整備され、訪れる方が「赤目の森に来るたびに綺麗に変わっていくので驚いています」とのコメントもありました。

毎年、行われる国際ワークキャンプもいつもは2週間ですが、今回の会議開催のため3週間というハードワークだったにも関わらず皆さん一生懸命、ワークをこなされました。本当にありがとうございました。

また、青少年の国際交流の助成金事業として韓国と日本の自然環境をお互い交流し発表することができ、若い青年の活躍が萌芽更新のように里山の活動を活性化しています。これからが楽しみな「里山」に是非遊びに来てくださいね。

石窯完成!

パンやピザ、蒸し焼き料理などが出来るぞ~!



韓国訪問



< 農村のオンドルを体験 >



赤目のワークに参加したことがある韓国の青年に通訳を
してもらい説明を受ける理事長と佐野理事



忍者姿の黒子はキャンパーです!

全国雑木林会議

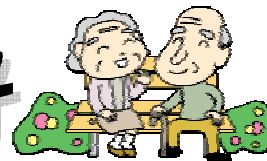


第一号トラスト地で基調講演、鼎談プラスワンが行われた。
コロシウム広場も綺麗に整備され森の中で舞台と観客が一体となった。





デイサービス赤目の森の様子



秋も深まり、里山もすっかり紅葉し色づいた風景の中で今年も好例の「里山運動会」を行いました。パン食い競争や玉入れ、綱引きとスタッフが驚くほどみなさんハッスルし楽しんでおられました。モリモリ畑でも世間話をしながら草抜きや収穫をして新鮮な空気を吸いながらのんびりした時間を過ごされています。少し足を伸ばして「談山神社」へお弁当を持って紅葉狩りに出かけました。もみじが綺麗に紅葉し、美しい風景をみながら頂くお弁当は格別が美味し感じられたそうです。また、希望者だけ「桑名のハマグリと渡し舟」の日帰り旅行にも出掛けました。



里山広場にて運動会



モリモリ畑のお手入れ

談山神社にて

赤目の森で全国雑木林会議が開かれるというので、赤目の里山を育てる会の理事だということで出席させていただきました。理事といっても、私はたんに応援団の一人であって、日頃は直接、雑木林で作業をしたり調査したりすることがないので、少し肩身が狭かったのですが、今後の活動を考える上でたくさんのヒントがありました。

初日の分科会で参加したのは「里山の炎の巻」。心象図法、丹後海と星の見える丘公園などについての発表が行われました。それらのことについての話を聞いているうちに、赤目の里山を一人ひとりが心象風景を育てる素材にできないか、などと考え始めました。現実の里山と人が心のイメージとして抱く里山は別ものですが、後者が育ちやすい里山と、そうでない里山があるのではないかと思います。深いイメージが湧きやすい山を育てることができたらいいなと感じました。

2番目に、雑木林をどうやって上手に利用して環境保全型NPOとして持続可能にしていくか、ということについても考えさせられました。その点では、丹後の公園の事例が興味深いと思いました。星の観察をしたり、ミニ列車を楽しむ場所にするなど、アイデアはいっぱい。

赤目でいえば名張近辺の小中学生が、自分たちの小さな夢を育み実現できる場にすることで経営が成り立てば、などと夢想することしきりでした。個人的にはそんな感じで2日間の会議を過ごしましたが、会議そのものの中で今後、日本の雑木林をどうするかを論議する場があまりなかったのではないかと思います。ちょっともったいなかったか。でもプログラムの締めくくりとして、上野さんたちが野外で能を舞って下さったのは本当によかったと思います。

第14回全国雑木林会議三重大会に関わって

「雑木林会議？何それ」。最初に聞いた時は何の事やらさっぱり分からずチンプンカンプン。インターネットで検索するとズラズラーッと出てきてビックリ。やっとおぼろげながら輪郭がつかめたのが11月頃の事だった。

1月、2月は「赤目で雑木林会議を開く」事の周知を踏るべく、多方面に宣伝文書を配り実行委員会への参加を呼びかけた。2月18日の第1回実行委員会を迎え、最初に担当したのが宣伝用のチラシ作り。毎週のように「ああだ、こうだ」と言いながら少しずつ形になってくるのがじれったくもあり嬉しくも感じられた。

広く知って貰うにはマスコミの利用が一番。県庁で記者会見を開き、伊賀と名張市内の各新聞社の支局、通信部に宣伝文書を配ったが、直前になっても伊賀・名張では「雑木林会議？それは何？」との反応が主だった。

こんな事を繰り返しているうちに開催日が刻々と近づいていた。「あれもやろう、これもやろう」と思いはあっても身体は一つ、時間も限られている。直前には仕事を休んで準備に没頭したが、やり残した事は山ほどあった。

時には思わぬアクシデントにハラハラし、参加を約束した人が本当に来るのかドキドキし、連絡の行き違いでヒヤリとした事もあったが、今ではこの一連の取り組みで得た貴重な人と人とのつながり＝ネットワークを「里山の再生・復活」の活動に有効に生かしネットワークを更に大きく強いものにするべく取り組みをしている。

第14回全国雑木林会議三重大会副実行委員長 芝田 香象

2000年に取得した赤目の里山を育てる会のナショナル・トラスト第二号地の地目を、雑種地に変更する手続きを一昨年から、行政へ申請をしておりました。その結果 今年中旬に地目を田以外への地目変更が可能となったことがわかりました。

これは、トラスト地としての環境保全を目的とするために、田の地目を外してほしいという申請を行ったものです。これは、田の所有は農民の資格(50アール以上の田の所有者)がないとできないために、当時売買を行う時に便宜上 元理事長の吉森氏に所有者になってもらって土地を所有しようということでこれまでまいりました。

今回 田の地目を雑種地などに変更することができるようになった訳ですが、次にその地目変更とともに所有者の変更((特)赤目の里山を育てる会に所有者を変更)をする必要があります、現在その準備を取り組んでいるところです。この取り組みには隣地の方の同意や地区役員や農業委員会の同意などがあり、そう簡単には進まないこともあります。

しかし、地目変更所有権の移転ができる状況となった訳ですから、早急に取り組んで、吉森氏の負担を早急に減らしていきたいと考えています。

【赤目の里山を育てる会のメルマガの読者になってください】 現在254名様

赤目の里山を育てる会のホームページ <http://akame-satoyama.org>

このページで、メールマガジンを発行しております。読者登録をしていただけますと、無料で毎月、赤目の里山を育てる会 エコリゾート赤目の森の情報を受け取ることができます。ぜひ ご登録を

この間 第14回全国雑木林会議の取り組みなどで 発行を控えておりましたが、この11月よりまた復活発行してまいりたいとおもいますので、精々ご登録をしていただきますよう、ご案内方々お知らせいたします。

【ミツバチの巣箱の状況について】

この夏に、大台町の門浦氏からお譲りを受けた日本ミツバチの巣箱ですが、残念ながら8月に巣の中がすっかり空になるという事態に遭遇しました。

何かストレスや危険な状況があると、その巣をすべて引っ越すという習性があるとのことで、みんなで落胆いたしました。しかし、門浦さんによるとこのようなことは、しばしば起こることであり、赤目の森にとっては、日本ミツバチの生存の可能性が高まったとみることができるので、それは、それで結構なことではないかということをお聞きして、ほっとしました。そして、門浦さんからまた新しい巣箱の提供を9月に受ける事ができましたが、11月13日現在で、ミツバチたちは元気に巣で生活していることを赤目小学生4年生たちと確認をしました。

立派な巣とたくさんのお蜜を抱えた巣箱でしたが、この冬を何とか乗り越えてくれるように、みんなで祈りたいと思います。

赤目の里山を育てる会の現状

個人会員 145名

賛助会員 14団体個人

みどりの募金累計金額 391万円

【寄付金のご協力】

名張市赤目町 北森勝子様 5万円

名張市神屋 奥田みよ様 3万円

【編集後記】

みなさんお元気ですか。もう12月になります。

第14回全国雑木林会議三重大会が無事に終いたしました。全国から大勢の仲間のみなさんが、赤目にお集まりいただき感謝しています。

忍者の青年たちが走り回っているのが、印象に残ったと感想がよせられています。

益々魅力ある赤目の里山に変えていくために、新しい忍法の開発を急がねばなりません。①